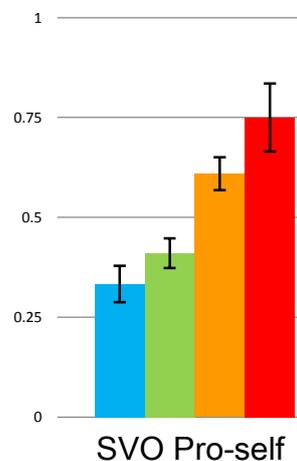
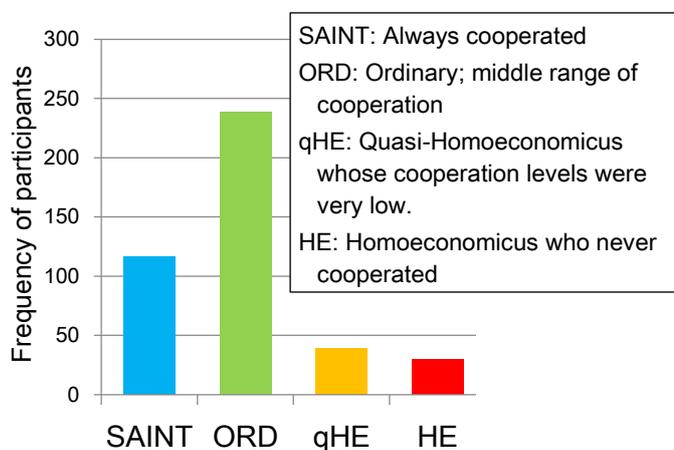


2 種類の非協力者：合理的非協力者と非合理的非協力者

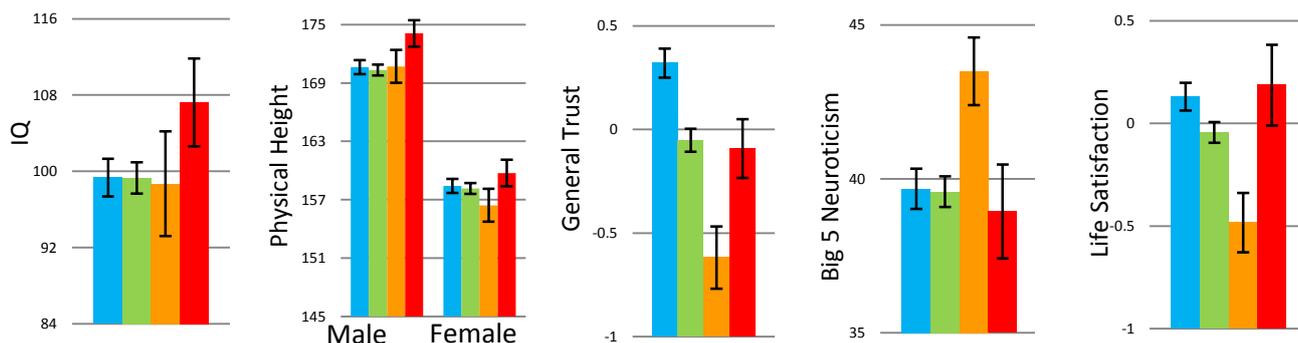
Yamagishi, T., Li, Y., Takagishi, H., Matsumoto, Y., & Kiyonari, T. (2014). In search of Homo economicus. *Psychological Science*, 25(9), 1699-1711. (The graphs presented here include additional data.)

社会的ジレンマ実験、特に 1 回限りの匿名状況においては、合理的自己利益追求者は、自分自身の利益だけを目的とした向自己的な選択をするはずである。我々は、7 回の独裁者ゲーム(毎回相手は変わる)においても、2 回の順序付きの囚人のジレンマゲーム(これも、毎回相手が変わる)においても、相手に利益を与える行動を全くとらなかった参加者(n=31)を、合理的非協力者(ホモエコノミカス Homo economicus: HE)として定義した。さらに HE よりもわずかに協力的だが、協力度が極めて低い参加者たちを準ホモエコノミカス Quasi-Homo economicus: qHE)として定義した。我々は当初、qHE は、HE ほど徹底していない合理的自己利益追求者だと考えていた。しかしながら、彼らは非合理的非協力者であった！



HE も qHE も他者の利益のことを考えない自己利己的な人である。

しかし、2つのグループの非協力者は、多くの点で異なっていた。その一部を下の図に示す。



本研究の参加者の約 7%は、知能が高く、純粹に自己利益のみを追求するホモエコノミカスタイプの参加者である。彼らは、他の人よりも背が高い。

さらに 9%の人々は、協力行動の欠如という点ではホモエコノミカスと似ているが、別の点ではホモエコノミカスとは全く異なる人々であった。彼らは、信頼の低さと不安の高さにより特徴づけられる。

